

PMF 2012



PMF 2012

札幌国際教育音楽祭
7月7日(土)~8月4日(土)

記者会見

ヤマハ銀座 6Fサロン
2012年1月31日(火) 午後1時30分

出席

木村 俊光
PMF 芸術顧問 新国立劇場オペラ研修所長 桐朋学園大学教授
原 武
PMF 芸術顧問・理事 サントリーホール特別顧問
中西 浩二
PMF 常務理事

PMF 2012



PMFとは

パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)は、20世紀を代表する作曲家、指揮者のレナード・バーンスタインによって1990年に札幌に創設された国際教育音楽祭です。

その目的は、アジアを中心とした若手音楽家のための国際教育音楽祭を創設し、若い豊かな才能と世界一流の音楽指導者との出会いによる教育をアジア・札幌で実現することによって、次代を担う世界の若手音楽家の育成を図るとともに、音楽を通じた国際交流、国際相互理解をめざすものです。

音楽祭の名称となっているパシフィック(Pacific)は、単に地理的な意味を表わすものではなく、この言葉がもつ太平、平和の意味をとらえて、音楽祭の理念に掲げたものです。

バーンスタインはアメリカのタングルウッド音楽祭で育まれ、その経験をもとに優れたしきみをPMFに移植しました。バーンスタインにゆかりのある音楽祭は、この他にドイツのシュレスヴィヒ＝ホルシュタイン音楽祭があり、彼が構想したとおりに、アメリカ・ヨーロッパ・アジアの三極にまたがった国際教育音楽祭が着実に成果をあげ、歴史を積み重ねています。

PMFは2012年で23回目を迎ますが、これまで参加したアカデミー生は70の国と地域、約2700人にのぼり、86の世界の主要なオーケストラで活躍しています。今では、PMFに参加したアカデミー生が一流の音楽家となってPMF教授陣として再び札幌に戻り、アカデミー生の指導はもとより、華麗な音楽で市民を楽しませてくれます。

これからも、PMFはバーンスタインの遺志を受け継ぎ、世界の若手音楽家の育成とクラシック音楽の振興に努めてまいります。

PMF 2012

Pacific Music Festival 2012

PMF2012を発表します。

昨年は、3月11日に発生した東日本大震災によって、日本は未曾有の災害の中で多難な一年を送りました。

しかし、その中で世界中の多くの人々の支援や善意、暖かな言葉に励まれ、助け合って生きることの大切さを再認識した一年でもありました。

PMFでは、音楽を通じて日本を励ましたいというアカデミー生やアーティストの強い言葉のもとに、いち早くPMF2011の開催を決定し、またチャリティコンサートを開催して微力ながら、被災地の復興支援活動にご寄附させていただきました。

今年は、困難な状況を人々の絆で乗り切り、立ち上がる新たなスタートの年です。PMFも新たな年のスタートに際し、これまでの固定した形にとらわれず、世界の才能豊かな若手音楽家の育成と音楽文化の向上をめざし、そして少しでも人々に励まし、喜び、明るさをお届けできるよう、新しい企画を盛り込んで果敢に取り組んでまいります。

ぜひ、全国のクラシック音楽ファンの皆さんに札幌国際教育音楽祭 PMF2012にお越しいただき、最高の音楽を求めて集まった世界の若き音楽家たちのハーモニーと、新しい時代に向けて進み始めたPMFに、熱い声援を送っていただきますようお願い申し上げます。

NEW-PMF 2012年からの新しい取り組み

1. PMFアカデミーでの新たな取り組み

- ① PMFアカデミー推薦コースのトライアル
- ② PMFアジア・フレンドシップ・アカデミーの新設

2. PMFオーケストラの挑戦

- ① 初の海外公演～日中国交正常化40周年記念コンサート
- ② オーケストラ・プログラム～ABC/3 プログラムからSABC/4 プログラムへ

3. PMF-GALAコンサートの新設

- ① Kitaraラストコンサート～GALA仕立てによるプログラムの充実化
- ② PMF賛歌の発表～PMF-GALAとピクニックコンサートの最後を飾るテーマ曲

PMF 2012

1. PMFアカデミーでの新たな取り組み

①PMF2012では、オーケストラ・アカデミーの弦楽部門に、世界を代表する音楽学校から優秀な学生若干名を推薦で招待する、PMFアカデミー推薦コースを試験的にスタートします。

②また、アジア地域の若手音楽家の育成を目的に、新たにPMFアジア・フレンドシップ・アカデミーをスタートさせます。これは、東南アジア、中央アジアの音楽学校、またはオーケストラに所属する若手音楽家で、将来、その国の音楽活動の担い手になり得る人材を推薦により招待し、約2週間のトレーニングコースを設けるものです。初年度の2012年は、約10名を会期後半の2週間、PMFに招待する予定です。

なお、現在PMF2012のオーディションを、世界19都市で実施中です。募集人数は、オーケストラ110名、コンダクティング3名、ヴォーカル8名です。

2. PMFオーケストラの挑戦

①PMF中国公演を行います。PMFとしては初の海外公演となり、北京、瀋陽で開催します。北京公演は2012年8月4日(土)に中国国際青年交流センター世紀劇院、瀋陽公演はそれに先立つ8月2日(木)に遼寧大劇院(予定)で開催します。北京公演は中国日本友好協会(北京)、瀋陽公演は瀋陽市人民政府とPMF組織委員会との共同開催です。

いずれも日中国交正常化40周年記念公演として行うことから、すべて招待公演で実施します。

ぜひこの機会に、中国在住の日本人はもとより、中国の多くの市民の方々に世界の若人が奏でるPMFオーケストラの演奏をご鑑賞いただきたいと思います。

②オーケストラ・プログラムは、従来のABC/3プログラムからSABC/4プログラムで構成します。この結果、毎週末は、札幌コンサートホールKitaraや札幌芸術の森・野外ステージで、PMFオーケストラのコンサートが開催されることになります。

これは、学ぶことに意欲の高いアカデミー生に、限られた時間で多くの学習と演奏の機会を設け、その期待に応えようとするものです。また、PMFファンの多くも、PMFオーケストラの演奏を楽しみにしていることから、7月中、週末に定期的に開催されるPMFオーケストラ演奏会を、国際教育音楽祭ならではの企画にしていきたいと思っています。

3. PMF-GALAコンサートの新設

①PMF2012 Kitaraラストコンサートを、装いを新たにPMF-GALAコンサートとして多彩なプログラムで構成します。これまでには、PMFオーケストラの最終プログラムの演奏だけでしたが、7月28日(土)のKitaraは、ホールのパイプオルガンを生かしたプログラムや室内楽の名曲を集めて、PMF-Kitaraラストコンサートにふさわしく充実した内容でお楽しみいただきます。

PMF 2012

② PMF-GALAコンサートの最後は、もちろんPMF オーケストラ(プログラムC)の演奏会ですが、締めくくりは、ステージと客席が一体となって歌い上げる、北の大地のPMF 賛歌です。

楽曲はホルスト作曲「惑星」からジュピター。PMFのために、北海道にゆかりのある、なかにし礼さんが新たに作詞し、ロサンゼルス在住の田中カレンさんが編曲を受け持ちます。

今後、PMFが続く限り、PMF-Kitara ラストコンサートのエンディングプログラムとして、長く歌い継がれていくことでしょう。

<PMF2012 その他のトピックス>

アーティスト

芸術監督ファビオ・ルイジ、客演指揮者エイヴィン・グルベルグ・イエンセンのほか、ソリストにイタリアで活躍中のピアニスト、アンドレア・バケッティ、PMFピアニストにウィーンを中心に活躍している2名の女性ピアニスト、コルネリア・ヘルマンと山田亜希子を迎え、PMFに新風を吹き込みます。

PMF2012では、一昨年に続いて PMF オーケストラのプログラムBでオペラが登場です。そのゲストシンガーとして、昨年11月に開催された第6回静岡国際オペラコンクールで2位(優勝者なし)に入賞した、吉田珠代を迎えます。

教授陣コンサート

装いを変えて新しいコンセプトでプログラムを構成します。

これまでのファカルティコンサートを、前半教授陣については「PMF ヨーロッパ」、後半教授陣は「PMF アメリカ」として、アンサンブルやリサイタルを行います。また、プログラムは現在調整中ですが、クラシック音楽の初心者からプロまでお楽しみいただける内容でお贈りします。

なお、教授陣は基本的に2011年と同様の体制としていますが、1991年以来、PMF 教授陣の中心的な存在であったウィーンフィルメンバーが、諸般の事情により2012年は参加がゼロになりました。

PMF 2012

PMF2012実施概要

23回目となるPMF2012は、7月7日午後1時から札幌芸術の森・野外ステージ[Leonard Bernstein Memorial Stage]で開幕します。

会期は8月4日までの29日間で、期間中、約40公演を行います。

コンサートツアーは7月30日から8月4日まで、東京、北京、瀋陽で4公演を行います。特に、北京、瀋陽公演は、日中国交正常化40周年記念演奏会として行うもので、PMFとしては初めての海外公演となります。

芸術監督は引き続き3年目となるファビオ・ルイジです。

また、客演指揮者に若手の気鋭エイヴィン・グルベルグ・イエンセンを迎えるほか、PMFピアニストには新顔2人が登場します。

主 催：公益財団法人 パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会

会 期：2012年7月7日(土)～8月4日(土) 29日間

会 場：札幌芸術の森 / 札幌コンサートホールKitara ほか

コンサートツアー：東京 / 北京 / 瀋陽

助 成：公益財団法人 野村財団 / 札幌市 / 北海道 ほか

特別支援：野村グループ / パナソニック / トヨタ自動車 / ヤマハ

特別後援：北海道新聞社 / 日本経済新聞社

特別協賛：北洋銀行 / アミノアップ化学 / 石屋製菓 / 津軽海峡フェリー

(以上、確定分)

参加アーティスト

芸術監督 ファビオ・ルイジ

客演指揮者 エイヴィン・グルベルグ・イエンセン

指揮者 山下一史

ソリスト アンドレア・バケッティ(ピアノ)

吉田 珠代(ソプラノ) / 第6回静岡国際オペラコンクール 2位入賞者

アシスタント・コンダクター

アレクサンダー・ビューロー

オーケストラ PMFオーケストラ

札幌交響楽団(PMFホストシティ・オーケストラ)

教授陣 〈東京クワルテット〉

マーティン・ビーヴァー(第1ヴァイオリン)

池田 菊衛(第2ヴァイオリン)

磯村 和英(ヴィオラ)

クライヴ・グリーンスミス(チェロ)

PMF 2012

〈PMF ヨーロッパ〉

ローター・シュトラウス(ヴァイオリン) / シュターツカペレ・ベルリン
ラインハルト・クラウス(ヴァイオリン) / シュターツカペレ・ドレスデン
セバスティアン・ヘルベルク(ヴィオラ) / シュターツカペレ・ドレスデン
調整中(チェロ)
スワヴォミール・グレンダ(コントラバス) / ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団
カール・ハインツ・シュツツ(フルート) / ウィーン国立歌劇場管弦楽団
セリーヌ・モネ(オーボエ) / シュターツカペレ・ドレスデン
ゲラルト・パッヒンガー(クラリネット) / ウィーン交響楽団
リヒャルト・ガラー(ファゴット) / ウィーン交響楽団
ロベルト・ラングバイン(ホルン) / シュターツカペレ・ドレスデン
タマーシュ・ヴェレンツェイ(トランペット) / ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
ニコラ・ノード(トロンボーン) / シュターツカペレ・ドレスデン
ミヒヤエル・ヴラダー(ティンパニ) / ウィーン交響楽団
アストリッド・フォン・ブルック(ハープ) / シュターツカペレ・ドレスデン

〈PMF アメリカ〉

デイヴィッド・チャン(ヴァイオリン) / メトロポリタン歌劇場管弦楽団
スティーヴン・ローズ(ヴァイオリン) / クリーヴランド管弦楽団
ダニエル・フォスター(ヴィオラ) / ワシントン・ナショナル交響楽団
ラファエル・フィグロア(チェロ) / メトロポリタン歌劇場管弦楽団
ハロルド・ロビンソン(コントラバス) / フィラデルフィア管弦楽団
ステファン・ラグナー・ホスクルドソン(フルート) / メトロポリタン歌劇場管弦楽団
ユージン・イゾトフ(オーボエ) / シカゴ交響楽団
スティーヴン・ウィリアムソン(クラリネット) / シカゴ交響楽団
ダニエル・マツカワ(ファゴット) / フィラデルフィア管弦楽団
ロバート・ワード(ホルン) / サンフランシスコ交響楽団
マーク J. イノウエ(トランペット) / サンフランシスコ交響楽団
デンソン・ポール・ポラード(トロンボーン) / メトロポリタン歌劇場管弦楽団
ティモシー・ジェニス(ティンパニ) / ボストン交響楽団
安楽 真理子(ハープ) / メトロポリタン歌劇場管弦楽団

〈ヴォーカル・アカデミー教授〉

マリス・ペーターゼン(ソプラノ)
ロベルト・セルヴィーレ(バリトン)
木下 志寿子(ピアノ)

PMF ピアニスト コルネリア・ヘルマン
山田 亜希子

PMF 2012

教育事業

1月から2月にかけて世界19都市において実施するオーディションでPMF2012のアカデミー生を選抜。合格者は7月の札幌で、芸術監督ファビオ・ルイジや有名オーケストラで首席奏者を務める教授陣をはじめ世界の一流アーティストから直接指導を受ける。
また、東南アジア、中央アジアの若手音楽家を推薦により招待し、同様に一流の教育陣から指導を受けるコースを新たに設ける。

PMF オーケストラ・アカデミー (募集人数 110名)

PMF コンダクティング・アカデミー (募集人数 3名)

PMF ヴォーカル・アカデミー (募集人数 8名)

PMF アジア・フレンドシップ・アカデミー (招待人数 約10名)

演奏会事業

PMFアカデミー生が各種演奏会で修練の成果を発表するとともに、教授陣やゲストアーティストによる優れた演奏を提供する。
(PMF オーケストラ演奏会やリサイタル、アウトリーチコンサートなど約40公演を予定)

音楽普及事業

国際教育音楽祭としてのPMFの意義や魅力を紹介しながら、クラシック音楽の普及を図る。
(札幌交響楽団演奏会、PMF青少年のための音楽会、PMFチャリティコンサート、リハーサルの一部公開を予定)

PMF 2012

PMF2012 オーケストラ・プログラム

PMFオーケストラ

プログラム S

7月7日(土)・8日(日)

エイヴィン・グルベルグ・イエンセン(指揮)/アンドレア・バケッティ(ピアノ)/PMF オーケストラ

バーンスタイン

「キャンディード」序曲

モーツアルト

ピアノ協奏曲 第11番 へ長調 K. 413 <7月7日>

ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453 <7月8日>

ベートーヴェン

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

プログラム A

7月14日(土)・15日(日)

ファビオ・ルイジ(指揮)/PMF オーケストラ

ストラヴィinsky

ペトルーシュカ(1947年版)

チャイコフスキー

交響曲 第6番 ロ短調 作品74「悲愴」

プログラム B

7月20日(金)・21日(土)

ファビオ・ルイジ(指揮)/吉田 珠代(ソプラノ)/PMF ヴォーカル・アカデミー /PMF オーケストラ <7月20日>

PMF コンダクティング・アカデミー(指揮)/PMF ヴォーカル・アカデミー /PMF オーケストラ <7月21日>

ヴェルディ

歌劇「運命の力」序曲

歌劇「ナブッコ」序曲

PMF 2012

モーツアルト

歌劇「フィガロの結婚」K. 492 序曲

歌劇「後宮からの逃走」K. 384 序曲

プッチーニ

歌劇「マノン・レスコー」から第3幕への間奏曲

ロッシーニ

歌劇「絹のはしご」序曲 ほか



プログラム C

7月28日(土)・29日(日)

ファビオ・ルイジ(指揮) / デイヴィッド・チャン(ヴァイオリン) / ラファエル・フィグロア(チェロ)
PMF オーケストラ

ブラームス

ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102

R. シュトラウス

アルプス交響曲 作品64 TrV 233

PMF オーケストラ中国公演

今年、日本と中国は国交正常化40周年を迎えます。これを記念して、PMFは初の海外公演を首都北京と中国東北部の中心都市・瀋陽で開催します。

“世界中の人たちと感動を分かち合い、それを受け継いでいく人たちを育てたい”というレナード・バーンスタインの創設理念に賛同し、世界各地から集まるPMF オーケストラ・メンバーが中国の地で平和の響きを奏でます。

〈日中国交正常化40周年記念 PMF オーケストラ日中友好親善演奏会〉

8月2日(木) 瀋陽公演 遼寧大劇院(予定)

8月4日(土) 北京公演 中国国際青年交流センター世紀劇院

ファビオ・ルイジ(指揮)/PMF オーケストラ/山田 亜希子(ピアノ)

ストラヴィンスキイ

ペトルーシュカ(1947年版)

チャイコフスキイ

交響曲 第6番 口短調 作品74「悲愴」

PMF 2012

札幌交響楽団(PMFホストシティ・オーケストラ)

1990年の第1回からPMFに参加し、昨年は創立50周年を迎えた札幌交響楽団。その札響を今年はPMF芸術監督が指揮します。ルイジ指揮による札響サウンドにどうぞご期待下さい。
札幌の最終日を飾るピクニックコンサートでは、ジーンズ姿でカラヤンの代役を務めたことでも有名な山下一史さんと札響による青少年のための音楽会でスタートします。

〈PMFホストシティ・オーケストラ 札幌交響楽団演奏会〉

7月12日(木) 札幌コンサートホールKitara

ファビオ・ルイジ(指揮)/カール・ハインツ・シュッツ(フルート)/札幌交響楽団

ウェーバー

「オベロン」序曲 J. 306

モーツアルト

フルート協奏曲 第1番 ト長調 K. 313

ブラームス

交響曲 第4番 ホ短調 作品98

〈PMF青少年のための音楽会〉

7月29日(日) 札幌芸術の森・野外ステージ

山下 一史(指揮とお話)/札幌交響楽団

プログラムは調整中

PMF2012 コンサート・トピックス

PMF-GALA コンサート

札幌コンサートホール Kitara のラストは、今回から「PMF-GALA コンサート」として開催します。PMF オーケストラのプログラム C にアカデミー生や教授陣、ゲストアーティストによる室内楽を織りまして、今夏の PMF 開催を祝い、PMF2012 の終盤を華やかに彩るコンサートです。

アーティストやスタッフはもちろん、お客様にもドレスアップして“晴れの日”を楽しんでいただきます。コンサートのエンディングは、PMF オーケストラの演奏で、市民合唱団と客席の全員による「PMF 賛歌」の大合唱です。曲は、ホルスト作曲「惑星」からジュピター。PMFのために、作詞家なかにし礼さんが歌詞を書き下ろし、ロサンゼルス在中の田中カレンさんが編曲を担当します。

〈PMF-GALA コンサート〉

7月28日(土) 札幌コンサートホール Kitara

第1部 室内楽名曲集

みずみずしい響きを感じる曲、じっくり耳を傾けられる作品など室内楽の名曲を集め、祝祭の一日を音楽で綴るプログラムをお贈りします。

(プログラムと出演者は調整中)

第2部 PMF オーケストラ演奏会(プログラム C)

エンディング PMF 賛歌

～ ホルスト作曲「惑星」からジュピター～

作詞：なかにし礼

編曲：田中カレン

ピクニックコンサート ~ レナード・バーンスタイン・メモリアル・コンサート ~

昨年、過去最高の入場者数を記録したピクニックコンサート。今年も PMF2012 のフィナーレはピクニックコンサートです。“PMF 発祥の地・札幌芸術の森”的豊かな緑の中で、アカデミー生と参加アーティストによる演奏を、一日いっぱいゆっくりとお楽しみ下さい。「PMF POPS!」ではプロードウェイ・ミュージカルの大ヒット作、バーンスタインの『ウエストサイド・ストーリー』から「ダンス」をお届けします。

〈ピクニックコンサート〉

7月29日(日) 札幌芸術の森・野外ステージ

PMF 青少年のための音楽会

PMF アンサンブル演奏会

PMF POPS! “レッツ・ス wing”

PMF オーケストラ演奏会(プログラム C)

エンディング PMF 賛歌 ～ ホルスト作曲「惑星」からジュピター～



PMF 2012



©BALU Photography

芸術監督
ファビオ・ルイジ

Artistic Director
Fabio Luisi

イタリアのジェノバ生まれ。オペラやオーケストラで活躍する指揮者として世界で注目を浴びている。パガニーニ音楽院でピアノのディプロマを取得後、パリのアルド・チッコリーニのもとで研鑽を積む。レイラ・ゲンサー、ロドルフォ・チェレッティらの伴奏者をつとめ、指揮者を目指すようになる。1983年、グラーツ音楽院を最優秀の成績で卒業し、翌年からグラーツ歌劇場で活動を始める。1987年以降は国際的にも注目を浴び、シュトゥットガルト国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ボルドー歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ミュンヘン放送交響楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団などと共に演。1990年にグラーツ交響楽団を創設し、1995年まで芸術監督をつとめる。

これまでに、ウィーン・トーンキュンストラー管弦楽団の芸術監督兼首席指揮者、スイス・ロマンド管弦楽団の音楽監督兼芸術監督、ドレスデン国立歌劇場の音楽総監督及びシュターツカペレ・ドレスデンの首席指揮者を歴任し高い評価を得た。2000年にニューヨーク・フィルハーモニック、シカゴ・リリック・オペラでアメリカデビューを果たし、2005年にはメトロポリタン歌劇場に出演。これまでに、パリ管弦楽団、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ダラス交響楽団、NHK交響楽団、フランス放送管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、ベルリン国立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ルツェルン音楽祭、グシュタード音楽祭など数多くのオーケストラや歌劇場、音楽祭に出演。1996年から2007年までライプツィヒ放送交響楽団(MDR交響楽団)の芸術監督をつとめ、2005年からはウィーン交響楽団の首席指揮者をつとめる。

2010年からメトロポリタン歌劇場の首席客演指揮者に就任し、2011年9月より首席指揮者に指名される。2012年からはチューリッヒ歌劇場のGMD(音楽総監督)に就任予定。

ルイジは2006年にイタリア共和国勲章「ウフィッチャーレ」、2008年にはオーストリア芸術科学名誉十字章およびイタリア連帯の星勲章「コメンダトーレ章」を授与されている。

PMFには2004年に客演指揮者、2008年に首席指揮者として参加。2010年からPMF芸術監督をつとめ、今年3年目を迎える。

主な参加アーティスト

PMF 2012



©Paul Bernhard

客演指揮者

エイヴィン・グルベルグ・イエンセン

Guest Conductor

Eivind Gullberg Jensen

ノルウェーのトロンハイムでヴァイオリンと音楽理論を学んだ後、指揮をストックホルムでヨルマ・パヌラ、ウィーンでレオポルト・ハーガーに師事し、研鑽を積む。これまでにアスペン音楽祭でディヴィッド・ジンマンの指導を受け、ポーランドとニューヨークでクルト・マズアのマスタークラスを受けている。

ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者として最初のシーズンを大成功に収め、ベルガモやブレシアの音楽祭ではピアニストのカティア・ブニアティシヴィリと、ベルゲン音楽祭ではガブリエラ・モンテーロと共に演。今シーズンは、スペインやフランスへのツアーも予定している。

2010-11シーズンはベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、オランダ放送フィルハーモニー、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団へのデビューを飾った。2011年6月にはエレーヌ・グリモーをソリストにウィーン交響楽団を指揮し、バート・キッシング音楽祭でも再び共演。

2011-12シーズンはロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、デンマーク国立放送交響楽団との共演するほか、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、フランス国立ボルドー・アキテーヌ管弦楽団、南西ドイツ放送交響楽団などに再び出演する。

主な参加アーティスト

PMF 2012



ピアノ
アンドレア・バケッティ

Piano
Andrea Bacchetti

イタリアのリヴィエラ海岸、レッコに生まれる。幼少期から、カラヤン、マガロフ、ホルショフスキ、ベリオといった芸術家から薫陶を受ける。ザルツブルクのモーツアルテウム音楽大学、パリ国立高等音楽・舞踊学校、ジェノヴァのニコロ・パガニーニ音楽院で学び、イモラ国際ピアノ・アカデミーでは、フランコ・スカラに師事する。11歳でクラウディオ・シモーネ指揮、イ・ソリスティ・ヴェネティとミラノで共演し、デビュー。それ以降、ヨーロッパの主要なフェスティバルに参加し、世界各地へ招待されるなど輝かしい経歴をスタートさせた。

1996年にプレミオ・ヴェネツィア・コンクールに優勝、2006年ウンベルト・ミケーリ国際ピアノ・コンクールでも入賞し、受賞歴も数多い。

これまでに、パリのサル・プレイヤルやサル・ガヴォー、ザルツブルク音楽祭、チューリヒ・トーンハレ、ベルリン・コンツェルトハウス、テアトロ・レアル(マドリード)、テアトロ・コリセオ(ブエノスアイレス)、ゲヴァントハウス(ライプツィヒ)などでリサイタルを行う。日本や南アメリカへのツアーも行い、室内楽ではプラジヤーク弦楽四重奏団、イザイ弦楽四重奏団と定期的に共演している。

録音も数多く、バッハのインヴェンションとシンフォニアのCD(DYNAMIC社)は、2009年9月のBBC ミュージック・マガジンで“Discs of the Month(月間最優秀賞)”に選ばれ、若手ピアニストにとって名誉な評価を得た。PMFには初めての参加となる。

主な参加アーティスト

PMF 2012



指揮
山下一史

Conductor
Kazufumi Yamashita

1984年桐朋学園大学卒業後、ベルリン芸術大学に留学。1986年デンマークで開かれたニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。

1985年12月からカラヤンの亡くなるまで彼のアシスタントをつとめた。急病のカラヤンの代役をジーンズ姿でつとめ話題となる。ヘルシンボリ交響楽団(スウェーデン)首席客演指揮者、九州交響楽団常任指揮者、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者などを歴任、2008年4月同団名誉指揮者就任。2006年仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者就任、CD制作を行うなど積極的な活動を展開。2009年4月から2012年3月まで同団正指揮者。2009年4月サンクトペテルブルク交響楽団定期に出演、大成功を収めたほか、2011年2月にはシューマン作曲歌劇「ゲノフェーファ」日本舞台初演を行うなど着実な成果を上げている指揮者として注目を浴びている。



©Masahide Sato

PMFホストシティ・オーケストラ
札幌交響楽団

PMF Host City Orchestra
Sapporo Symphony Orchestra

1961年発足。2011年に創立50年を迎えた札幌交響楽団は、北海道唯一のプロ・オーケストラとして「札響」の愛称で広く親しまれている。現在、音楽監督は尾高忠明、正指揮者は高関健、首席客演指揮者はラドミル・エリュカという充実した指揮者陣で、透明感のあるサウンドとパワフルな表現力は雄大な北海道にふさわしい魅力を放つオーケストラとして人気を集めている。北海道を基盤に世界へ発信するオーケストラとして、意欲的な演奏活動を道内外で展開。年間120回をこえる演奏会のほか、これまでにアメリカ、ドイツ、東南アジア、英国、韓国等でツアーモードも行い絶賛を博す。2011年5月には、創立50周年を記念して、ヨーロッパツアーモードを行なった。Kitaraでのレコーディングにも積極的に取り組み、2007年以降毎年CDを発売し、注目を集めている。

主な参加アーティスト

PMF 2012



©Marco Borggreve

東京クワルテット

マーティン・ビーヴァー(第1ヴァイオリン)

池田 菊衛(第2ヴァイオリン)

磯村 和英(ヴィオラ)

クライヴ・グリーンスミス(チェロ)

Tokyo String Quartet

Martin Beaver, 1st violin

Kikuei Ikeda, 2nd violin

Kazuhide Isomura, viola

Clive Greensmith, cello

結成43年目を迎え、世界で最も素晴らしい室内楽団のひとつとして評価されている。桐朋学園で斎藤秀雄に深く影響を受けたメンバーにより、1969年ジュリアード音楽院で結成され、結成後間もなく、コールマン国際室内楽コンクール、ミュンヘン国際コンクール、ヤング・コンサート・アーティスト・インターナショナル・オーディションで優勝。1976年からはイエール大学音楽学部で、レジデンツ・カルテットとして後進の指導にあたるほか、夏にはノーフォーク室内楽音楽祭で数々の若手弦楽四重奏団を指導している。北アメリカ、ヨーロッパ、東アジアでも定期的にマスタークラスを行なっている。1995年以来、日本音楽財團から貸与されている「パガニーニ・クワルテット」(19世紀にパガニーニが所有し、演奏に使用していたことから名付けられた1セットのストラディヴァリウス)を使用。ドイツ・グラモフォンとレコーディングの専属契約をしている。PMFへは2005年以降8回目の参加。

主な参加アーティスト

PMF 2012



©Nancy Horowitz

ピアノ
コルネリア・ヘルマン

Piano
Cornelia Herrmann

ザルツブルクの音楽一家に生まれる。1985年からザルツブルクのモーツアルテウム音楽大学でピアノを学ぶ。その後、イムレ・ローマンに師事、ウィーン国立音楽大学ではノエル・フローレス教授のもとで研鑽を重ねた。その傍らアンドラーシュ・シフ、アリエ・ヴァルディ、アレクサンダー・ロンクィッヒらのマスタークラスを受けると同時にブダペストでは定期的にフェレンツ・ラドシュ教授から教えを受ける。1996年、ドイツのライプツィヒで開催されたJ. S. バッハ国際コンクールで最年少の19歳で最高位を獲得。また1999年ザルツブルクで開催されたモーツアルト国際コンクールでは特別賞を受賞。2001年5月にヒルデガルド・マッシュマン財団より大賞を獲得。この賞は奨学金として与えられるもので、音楽家としての将来への道を援助するものとされている。

これまでにボップム交響楽団、中央ドイツ放送室内フィルハーモニー、イスラエル室内オーケストラ、カメラータ・ザルツブルク、ザルツブルク・モーツアルテウム管弦楽団、リンツ・ブルックナー管弦楽団、チロル・シンフォニーオーケストラ、ウィーン室内管弦楽団、日本国内ではNHK交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団等と共に演。

これまでにゲルハルト・ボッセ、現田茂夫、マンフレッド・ホーネック、マツ・リリエフォース、ウーヴェ・ムント、サー・ロジャー・ノリントン、ユベール・スダーン、クリスティアン・アルミンク、サー・ネヴィル・マリナー、ジェームス・ジャッド、ジョン・アクセルロー等の指揮で演奏している。

コーンウォール州プロシャコーブのオーブン室内楽フェスティバル（創立者：シャンドール・ヴェーグ）に招かれ、またメクレンブルグ・ヴォルポメルン・フェスティバルにてウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーやヘルマン・バウマン等と共に演。

オーストリア、ドイツ、スイス、イタリア、ハンガリー、チェコ、日本、イスラエル、イギリスでソロと室内楽リサイタル、またCDやラジオ（ORF、NDR、MDR）録音も多数行っている。2006年には「N響アワー」にも出演。

ビクターからのデビューCDは2005年に発売、2006年2枚目のアルバムをリリース、いずれも高い評価を得ている。2012年にはカメラータより、J. S. バッハ「フランス組曲全曲」のCDをリリース予定。近年の活躍には目を見張るものがあり、ソロ活動の他、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーとの室内楽、クリストフ・ゲンツ（テノール）とのコンサートなど、若手ピアニストのホープとして注目を浴びている。

PMF 2012



©amélie & s.

ピアノ
山田 亜希子

Piano
 Mag. Akiko YAMADA

千葉市に生まれる。6歳でピアノを始め、桐朋学園大学附属子供のための音楽教室、桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部にて、幼少から大学までの一貫教育を受ける。1997年ドイツ・ドレスデンへ招かれソロリサイタルを行ったことをきっかけに渡欧し、2000年ドイツ・ベルリン国立芸術大学ピアノ科卒業。またオーストリア・ウィーン国立音楽大学ピアノコンサート科も満場一致の最優秀にて卒業し、2003年同大学より芸術修士号を授与される。

2011年4月から6月まで、ウィーン屈指の劇場フォルクス・テアターがスタインウェイ・オーストリアとのコラボレーションで制作した「33ヴァリエーションズ」全23公演にピアニストとして出演。ジェーン・フォンダ主演によるブロードウェイ・ヒット作のオーストリア初演となるプロダクションにおいて、ベートーヴェン作曲<ディアベリ変奏曲>を演奏した。オーストリア新聞各紙とも絶賛、一流紙プレッセは「共感できる演奏、聴衆が大歓声を贈るお気に入りのピアニスト」と高く評価した。続く10月3日、音楽の殿堂ウィーン楽友協会ブームスザールにてリサイタルを開催、大成功を収める。

そのほかオーストリアを中心にヨーロッパ各国でリサイタルを開き、スイスではM.ラヴェルのピアノ協奏曲ト調をムジークコレギウム・ヴィンタートゥール・オーケストラと共に、地元有力紙から称賛を得る。室内楽をはじめ、テレビやラジオ(ORF,Arte)の番組出演、2012年1月日本全国で公開される独・奥合作音楽ドキュメンタリー映画「ピアノマニア(2010)」の撮影に協力、多角的な演奏活動を展開している。

第3回やちよ音楽祭最優秀賞、Dr.ディヒラー音楽コンクール第1位のほか、ロンプロ=ステパノウ・ピアノコンクールやソフィア・ベーゼンドルファー国際ピアノコンクールで入賞を果たす。

演奏活動の傍ら、音楽評論家として日本の音楽雑誌に執筆する。2005年8月より「音楽現代」(芸術現代社)のオーストリア通信を担当、「音楽の友」(音楽之友社)2010年1月号よりスタートした「ウィーンの街に楽師を訪ねて」は人気連載のひとつである。そのほかアルバン・ベルク四重奏団やウィーン・リング・アンサンブルの演奏会プログラム、サントリーホール会員誌、2012年2月ソニーミュージックから発売される「ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団ニューイヤー・コンサート2012」DVD/ブルーレイのライナーノーツなど、多くの記事を手がける。またamélieというネームで写真家としても活躍している。

主な参加アーティスト

 オフィシャル・ホームページ <http://www.akikoyamada.at>